

## 大豆NEWS!

vol 8

## STS大豆って何？

～注目を集めるnon-GMOの除草剤耐性大豆～

12月8日に某民放のニュースでSTS大豆についての特集が組まれたことをきっかけに、畑作振興課にSTS大豆について多くの問い合わせが寄せられておりますので、これまでに得た情報を御報告いたします。

STS大豆は、米国のデュポン社が開発したスルフォニルウレア系除草剤（以下SU剤という）に耐性のある大豆です。STS大豆は、大豆用に登録されたSU剤に対し耐性を持っています。日本では、大豆に登録されたSU剤はありませんが、稲、麦、とうもろこし、稲科牧草などにSU剤（ハーモニー等）が使われています。除草剤耐性という点では、GMOのラウンドアップレディー大豆と同じですが、STS大豆は遺伝子組換え技術を用いず、従来の育種技術（方法）により育成されたものです。省力的にnon-GMO大豆が生産できる点が評価され、最近の日本・欧州でのGMOに対する反応を追い風に、作付面積が増加しています。

日本での知名度は低いSTS大豆ですが、アメリカでは1992年から栽培されており、現在約350品種、全米での作付面積（12年見込み）は200～250万ha（一部報道では360～400万ha）となっています。作付けの大部分はイリノイ州ですが、アイオワ州、インディアナ州でも栽培されているとのことです。

STS大豆のもう1つの特徴は、IPハンドリングシステムが確立されていることです。契約による栽培と、流通段階での徹底した管理により他品種（特にGMO大豆）の混入を防ぎ、輸出しています（しかし、100%のIPハンドリングは不可能とのこと）。デュポン社では、1999年におよそ10万tのIPハンドリングされたSTS大豆が日本に輸出されたと推測しています。

現在、STS大豆の日本における栽培は行っておりません。また、日本の品種とは形態や品質等の特性が異なるので、日本で栽培しようとしても正常な生育は見込めないとのことでした。また、SU剤は、長年連用することによって、耐性雑草が出現しやすいという報告があります。

注：STS<sup>TM</sup>はデュポン社の登録商標です

発行：不定期

発行元：農林水産省畑作振興課 豆類班 tel 03-3502-8111

内線 E-mail

豆類班長 鈴木良典 4333 yoshinori\_suzuki@nm.maff.go.jp

農産園芸専門官 河合亮子 4318 ryoko\_kawai@nm.maff.go.jp

大豆企画係長 後藤 寿 4319 hisashi\_gotou@nm.maff.go.jp

大豆指導係 一関英樹 " hideki\_ichinoseki@nm.maff.go.jp

- ・記事や大豆生産振興に関する御質問・御感想など、ご自由にお寄せください。
- ・記事を転載される場合は、御一報ください。